

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度 総合	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己 評価	外部 アンケート 等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①単位制高校としての、本校のシステムに満足している生徒が70%以上である。	①生徒の実態やニーズに応じた選択科目を用意するなど、魅力ある教育課程や学校行事の検討・工夫・改善を行う。	A	A	A	①満足と回答した生徒は91%であった。保護者アンケートでも92%が満足していると回答した。今後も単位制高校としての特色を活かし、きめ細かい指導を充実させる。 ②学校行事に主体的に参加していると回答した生徒は、53%であったが参加した行事に満足との回答は76%であった。通常の生徒会行事が行われるようになり、満足度も増し、積極的な行事参加が期待できる。 ③80%の生徒が「夜間の時間が合っている」、48%が「授業が選べる」、など学校の好きなどところをあげた。本校のシステムを活かしたきめ細かい教育を維持していく。 ④約70%の生徒が「中学校時不登校経験者であったが、講座履修率では93%となり、大きく改善傾向が見られた。引き続き個々の生徒の状況を把握し、サポートを継続する。 ⑤校内研修推進委員会などが中心となり、授業改善に係わる研修会を年5回実施した。本校の現状と課題に応じた研修を行い、研鑽に努めたい。	A単位制高校システムを活かし、生徒・保護者とも9割以上の満足を得られていることは教職員みなさまのご尽力の素晴らしい成果です。 A単位制にもかわらず、担任制も、より強く機能していると感じます。 A7割の生徒が不登校経験者である現状で、講座履修率が約90%を超えているのは、生徒の自己肯定感や自己有用感の醸成に結びついていると感じています。教職員のみならずの力添えを高く評価したいと思います。 A家庭と連携をとる姿勢の大切さを感じます。
		②生活体験発表大会や文化発表会等の特色ある学校行事に主体的に参加している生徒が60%以上である。	②生徒役員と協力しながら、生徒にとって学校行事が主体的に運営・参加できるような機会となるように工夫する。	B	B	B		
		③自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	③生徒の安心・安全を第一に、生徒にとって居心地のよい環境づくりに努める。	A	A	A		
	2 個々の生徒の実情に応じた指導を行っていますか。	④中学時代に不登校や特別な支援が必要だった生徒の回復状況が70%以上である。	④複数の職員による日常的な教育相談や特別支援教育を通して適切な対応をとるとともに、家庭との連携を深めながら回復途上の生徒を支援する。	A	A	A		
		⑤生徒理解や指導充実のために、職員の研修会を年3回以上行っている。	⑤校内研修推進委員会が中心となり、研修会を企画する。	A	A	A		
		⑥授業において、学習内容を理解している生徒が70%以上である。	⑥職員研修の機会等を有効に活用し、授業改善を学校全体で進め、生徒の実態を踏まえた上で、理解度が深まる工夫を進める。	A	B	A		
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑦授業アンケートの中で授業に意欲的に取り組んでいると回答している生徒が70%以上である。	⑦生徒が授業に意欲的に取り組み、積極的に参加できるような学習環境の整備ならびに教材開発に努める。	A	A	A	⑥3科目以上で学習内容を理解していると回答した生徒は75%であった。前年度は80%で、やや下がった。多様な生徒に対応する授業改善を行い、基礎的な学力の定着を図ることを目指す。 ⑦授業に意欲的に取り組んでいると回答した生徒は78%であった。前年度とほぼ同じ結果となった。一人でも多くの生徒が学習意欲をもてるよう、教材研究に努めたい。 ⑧授業に出席しようと努力していると回答した生徒は65%であった。前年度の第1回78%、第2回73%と比べ下がっている。研修等を活用し、魅力ある授業づくりに努めたい。	Aアンケートの数値が若干下がっているが、先生方の授業改善努力を継続されているので特に数値低減が問題とは考えられないと感じています。 A「居場所としての授業を目指す」には学校の矜持を感じます。 A年間を通じ意欲的に授業に取り組んでいる生徒が約8割はすばらしい。清陵高校を選び入学し、そのような回答した生徒さんの気持ちを想像するだけで感無量になります。授業に出席しようと努力していると回答した生徒の割合が低減しているのは気になります。
		⑧授業アンケートの中で授業に出席しようと努力していると回答している生徒が80%以上である。	⑧生徒の居場所としての授業を目指し、生徒が安心して学習に取り組むことができるよう適切な支援を行う。	B	B	B		
		⑨職員会議や各係会議等において、生徒の情報交換を月2回以上行っている。	⑨日ごろから生徒の様子を観察し、共有できる最新の情報を収集・整理する。	A	A	A		
	4 生徒の学習意欲を高める指導を行っていますか。	⑩巡回・声かけ等の指導を毎日行っている。	⑩指導計画を立て、全職員により実施する。	A	A	A		
		⑪部活動を活性化し、意欲的に活動している生徒が90%以上である。	⑪部活動へ参加する生徒を増やし、継続的に指導していく。	B	B	B		
		⑫アンケートを実施し、未然防止に努めるとともにその結果に応じた対応を、係を中心にして組織的に行う。	⑫アンケートを実施し、未然防止に努めるとともにその結果に応じた対応を、係を中心にして組織的に行う。	A	A	A		
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑬校内研修等を行うことにより教職員の意識を向上させる。	⑬校内研修等を行うことにより教職員の意識を向上させる。	A	A	A	B夜間部という特性上、部に加入し活動する困難さは想像できますが、一人でも多くの生徒が部活動に入ってみたいと思える仕掛けはできないものでしょうか。 A人と関わりながら生活をしていくにはルールを順守したり基本的な生活習慣が当たり前になっていることが必須だと思います。継続してその確立ができるように生徒指導のご尽力をお願いします。 A生徒を見守り続けるスタンスのサポートを引き続きお願いします。 A良いことも悪いことも生徒の変化を家庭と共有する姿勢がここに現れていると思いました。	
		⑭校則を守ることを心がけている生徒が80%以上である。	⑭集会、授業、HR等あらゆる機会をとおして声をかけ、働きかける。	A	A	A		
		⑮健康で規則正しい生活を心がけている生徒が70%以上である。	⑮日ごろから生徒の生活状況を観察し、必要に応じて面談等を行う。	A	A	A		
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑯家庭との連携を密にして、生徒の心が学校に向くよう支援する。	⑯家庭との連絡を密にして、生徒の心が学校に向くよう支援する。	A	A	A		
		⑰キャリア教育・進路行事の系統性を高め全校行事、各学年行事を計画し有益だと感じている生徒が60%以上である。	⑰外部機関等と協力して、進路について考える機会を与え、進路選択の幅を広げられるように指導する。	A	A	A		
		⑱進路実現に向け積極的に取り組んでいる生徒が60%以上である。	⑱あらゆる機会を通して進路について考えさせ、その実現を支援する。	A	A	A		
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	⑲進路希望未定者30%未満である。	⑲二者面談、三者面談等を通して、情報の共有を職員全体で図る。	A	A	A	A大いに役に立った・役に立ったは61.6%であり、進路を意識して授業を選択している生徒は30.2%である。 ⑳3パートの企業見学会や上級学校見学会は実施できた。全学年を通しての進路ガイダンス1回実施できた。卒業学年は外部機関を招いての面接指導、学年団での面接指導を実施。1・2年次は外部講師を招いて進路学習を実施できた。 ㉑卒業予定者40名の進路状況は以下のとおりである。(大学7.5%、専門35%、就職27.5%)高卒の資格取得が目的の生徒は30%である。 ㉒三者面談や保護者面談を通して教員間での情報の共有が図られている。三者面談や保護者面談に参加したいが71%である。参加しない理由は仕事や家事が忙しいが90%を占めている。	
		⑳進路希望未定者30%未満である。	⑳二者面談、三者面談等を通して、情報の共有を職員全体で図る。	A	A	A		
		㉑卒業予定者40名の進路状況は以下のとおりである。(大学7.5%、専門35%、就職27.5%)高卒の資格取得が目的の生徒は30%である。	㉑二者面談、三者面談等を通して、情報の共有を職員全体で図る。	A	A	A		
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	㉒三者面談や保護者面談を通して教員間での情報の共有が図られている。三者面談や保護者面談に参加したいが71%である。参加しない理由は仕事や家事が忙しいが90%を占めている。	㉒三者面談や保護者面談を通して教員間での情報の共有が図られている。三者面談や保護者面談に参加したいが71%である。参加しない理由は仕事や家事が忙しいが90%を占めている。	A	A	A		
		㉓卒業予定者40名の進路状況は以下のとおりである。(大学7.5%、専門35%、就職27.5%)高卒の資格取得が目的の生徒は30%である。	㉓二者面談、三者面談等を通して、情報の共有を職員全体で図る。	A	A	A		
		㉔三者面談や保護者面談を通して教員間での情報の共有が図られている。三者面談や保護者面談に参加したいが71%である。参加しない理由は仕事や家事が忙しいが90%を占めている。	㉔二者面談、三者面談等を通して、情報の共有を職員全体で図る。	A	A	A		
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	㉕ICT活用に関する校内研修を年1回以上行う。	㉕校内研修を行うことにより、教職員のICT活用に対する意識を向上させる。	A	A	A	A学校HPへの71万超のアクセス数、昨年同期比で約何倍近い伸びでしょうが。 ②生徒指導だより9回、保健だより11回、学年通信40回、計60回発行できた。来年度も有用な情報発信を継続していく。 ③三者面談、保護者面談を通して、昨年の学校評価や本年度の行事予定などを周知した。本校の教育活動や取り組みを理解してもらえるよう面談等の場面を活用していく。 ④昨年度ウェブサイトのリニューアルしてから71万件超のアクセス数となっている。この1年では約33万件である。更新回数や内容の充実を更に進め、有用な情報発信をしていく。	
		㉖ウェブサイトに積極的に活用し、日常生活やこれからの自己実現を果たす上で参考となるような情報を発信する。	㉖ウェブサイトも積極的に活用し、日常生活やこれからの自己実現を果たす上で参考となるような情報を発信する。	B	B	B		
		㉗三者面談等を利用して学校評価の結果を保護者に公開し、情報の共有を図る。	㉗三者面談等を利用して学校評価の結果を保護者に公開し、情報の共有を図る。	A	A	A		
		㉘本校ウェブサイトへのアクセス数が年間3万件以上である。	㉘できるだけこまめに情報の更新を行い、コンテンツを魅力のあるものにする。	A	A	A		
		㉙ICT活用に関する校内研修を年1回以上行う。	㉙校内研修を行うことにより、教職員のICT活用に対する意識を向上させる。	A	A	A		
		㉚授業におけるICT活用に満足していると回答している生徒が70%以上である。	㉚生徒用PCやプロジェクターなどを活用しやすい学習環境の整備ならびに教材開発に努める。	A	A	A		
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉛校務のデジタル化についての研修を年1回以上行う。	㉛日々の校務を行う中でデジタル化の取組に関する情報交換を含めた研修を行うことにより、校務のスリム化を図る。	A	A	A	A生徒へのICT教育を推進する教員がどれほどICTを活用しているかの指標はありません。 A校務のデジタル化は、清陵高校仕様での独自展開が可能なのか、それとも県全体としての計画に左右されるものなのでしょうか。	
		㉜ChatGPTの活用研修を行い、校務に活用できるヒントを得られた。今後の具体的な活用法を検討したい。	㉜ChatGPTの活用研修を行い、校務に活用できるヒントを得られた。今後の具体的な活用法を検討したい。	A	A	A		
		㉝満足している41%、やや満足している49%であった。授業に積極的にICTを取り入れている教員も増え、教員間で活用法の共有を進めたい。	㉝満足している41%、やや満足している49%であった。授業に積極的にICTを取り入れている教員も増え、教員間で活用法の共有を進めたい。	A	A	A		